
17歳

空 彼方

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

17歳

【Nコード】

N5279P

【作者名】

空 彼方

【あらすじ】

十代が経験する恋愛、出会いから別れの心の葛藤
成長していく17歳の等身大の気持ちの流れ。

来い恋

「美緒！」

騒がしい午後の休憩時間の教室、私を呼ぶのは幼馴染のケイちゃんだ。

「美緒、学校の帰り、矢田んちにいくよ！」

もう、私の意志とは関係なく行くことが決まっているような言い方。暇だしイイかって感じで

「いいよ」って言ったけど、矢田って少し喋っただけで、そんなに仲が良い方でもなかったから

少し、突然お邪魔していいのかと戸惑いもあった。

ケイちゃんは、そんな私の気持ちも知らず、何故か浮き足立ったような会話で長い坂を自転車を

押しながら歩く、その浮き足立った意味が矢田の部屋に入って数分後に分かった。

「おっす！吉城！」

矢田が言っただけで振り返ると、どうやら矢田の友達らしい背の高い男の子が入ってきた。

そこで、勘付いた、ケイちゃんの浮き足立ち。どうやら矢田が男友達呼ぶって事で、期待したのだから。

四人は、なんともない会話で盛り上がり、そして、夕飯前ごろ帰ることにした。

ケイちゃんの携帯が鳴り、親から早く帰って来い電話で、先に長い坂を降った。自転車のスタンドを蹴ったとき、「ねエ」って吉城くんが声かけてきた。なんだかそのとき、（きたっ！）って思った。

「バイクで送ろうか、もう暗いし」

そう高校生二年なのに、他校である吉城くんは、もうバイクに乗

っていた。それだけで、大人に感じた。

私は、送ってほしいとか、ほしくないとかよりも、混乱して「いいよ！一人で帰れる！」って強い口調で、言ってしまった、と同時に自転車を発進させていた。

家までの帰り道、頭の中は吉城くんの声がマワツて、壊れたオ―デイオみたいになってた。

そうだよ、別に吉城くんが私をなんとかしようとか、そんな気もなかったかも知れないのに、なんであんなに、取り乱したようになつたのか、そう考えたら、あの部屋に吉城くんが入ってきた時から、もう答えが出てた。

吉城くんに一目惚れってヤツをしていたんだ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5279p/>

17歳

2010年12月16日16時05分発行